

東京教区青年の合宿、そして合同追悼ミサ



東京教区の青年たちの合宿「mass mass 楽しい」が、11月3日と4日、イエスのカリタス会管区本部を会場に行われ、60名を超える青年たちが参加しました。

主催は東京教区の青少年委員会。そのホームページには、今回の目的が次のように記されていました。

「神様のもとで、同年代の若者が集うこと。それが第一の目的です。共に学び、語り合い、食事をし、ミサを受ける中で、仲間の広がりを大事にします。

そして、ミサについて少しでも知って考えてもらうこと。

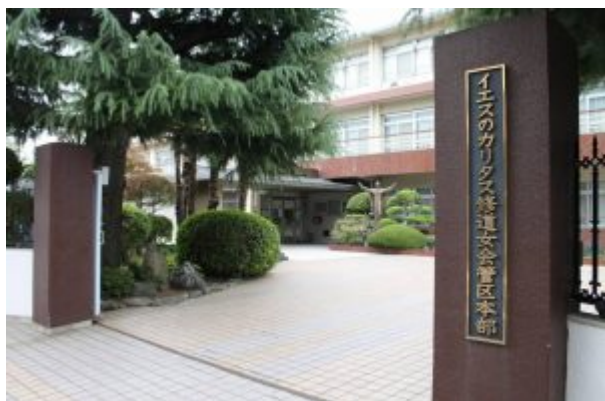
ミサに関して、分かっている / 分かっていない ひとまず置いておいて、ひとつひとつ大事な基本要素を学んでいきます。ミサの中で行われることひとつひとつに意味があって、それぞれに思いがあります。ただ学ぶばかりではなく、ミサについて考え、若者によるミサを作ることを目的にします。

ミサについて、たくさん知っている人は、もっと深めるために、まったく知らない人は、この機会にちょっぴり知るために、興味ない人も、楽しさを見つけ出すために、単純に、仲間と楽しく過ごすために、ぜひ、この青年合宿参加してみてください。」



というわけで「mass mass」楽しい」をテーマに、参加者は典礼について真剣に学び、いくつかのグループに分かれて意見を交わし、私たちの信仰の中心にある聖体祭儀への理解を深めたようです。

わたしは二日目の10時から行われたミサを、司式させていただきました。事前にしっかりと学んだこともあり、よく準備され、また積極的に参加する、良い典礼であったと思います。修道院のシスター方も一緒に参加してくださいました。



準備したリーダーたちに感謝。もっとこの輪が広がりますように。



そして、同じ11月4日の日曜日午後2時から、東京カテドラル聖マリア大聖堂で、合同追悼ミサを執り行いました。

11月は死者の月です。11月最初の日曜日に、府中と五日市のそれぞれの教区墓地と、納骨堂のある関口で、合同追悼ミサが行われています。関口の納骨堂にご親戚やご家族が眠っておられる方々を中心に、多くの方がミサに参加され、亡くなられた方々の永遠の安息を祈るとともに、地上の教会と天上の教会の交わりを心にとめ、互いに祈り合うことの大切さを再確認しました。



復活の主を信じる者にとって、死は終わりではなく永遠のいのちへの門です。私たちは、目に見えるこの世の生活だけで、すべてが完結するものではないことを信じています。常に、永遠のいのちへの希望のうちに生きています。



ミサの奉献では、亡くなられた方々を追悼して記入された名簿が奉納されました。
またミサ後には、地下の納骨堂へ移り、祈りが捧げられました。



亡くなられた方々の、永遠の安息を、心からお祈りいたします。